

事業概要票

事例NO. 49（平成22年度発表）

事例キーワード

地域生物の生息環境への配慮

事業名		かんがい排水事業（国営附帯）平鹿平野（一期）地区	地域生物の生息環境への配慮
事業担当機関		平鹿地域振興局農林部農村整備課	
事業期間		平成19～25年度 事例工事は平成22年度	
実施場所		横手市雄物川町谷地新田	
事業概要	全体事業費	1757百万円	
	工事概要	用水路工 L=9,973m （5路線）	
	事業の目的	○農業用水路を改修し農業用水の安定供給及び維持管理費の低減を図る。 農業用水路は昭和50年代に造成されたものだが、昨今、老朽化が進み漏水や法面の崩壊など維持管理費が高んでいるほか、営農形態の変化により慢性的な用水不足となっている。 事業ではこうした農業生産基盤の条件を整備するものである。 ○農業用水路の改修にあたっては環境との調和に配慮する。	
環境配慮の内容	○用水の送水であればコスト、耐久性、維持管理で優れているコンクリート二次製品により必要な通水断面を確保すれば良いが事前調査において希少種の生息が確認されたため工法を検討した。 ○事前調査で確認された生物は、魚類17種約2000尾、貝類6種及び甲殻類1種だった。保全対象魚は水路において再生産されていると考えられるイバラトミヨ淡水型（秋田県RDB絶滅危惧種Ⅱ類）、ヤリタナゴ（秋田県RDB準絶滅危惧種）とし、生息に必要な環境を再現した。 1 洪水時における待避場の設置 ・洪水時、下流ゲート転倒による急激な流速の変化に対応するため、逃げ場となる引き込み護岸（ワンド型）を設置した。 2 生息場の保全 ・産卵基質となる二枚貝の生息や餌料生物（水生昆虫など）の生息場を確保するため、水路底を40cm下げ底質に敷石・土砂を設け（ワンド・フチド型）、在来水生植物を移植した。		
施工後の状況	○現在は、施工中である。施工後は仮設水槽から魚類や植物の移動を行う予定である。 ○今後は、モニタリング調査により営巣や魚種等の変化を確認し施工効果を検証する予定である。		

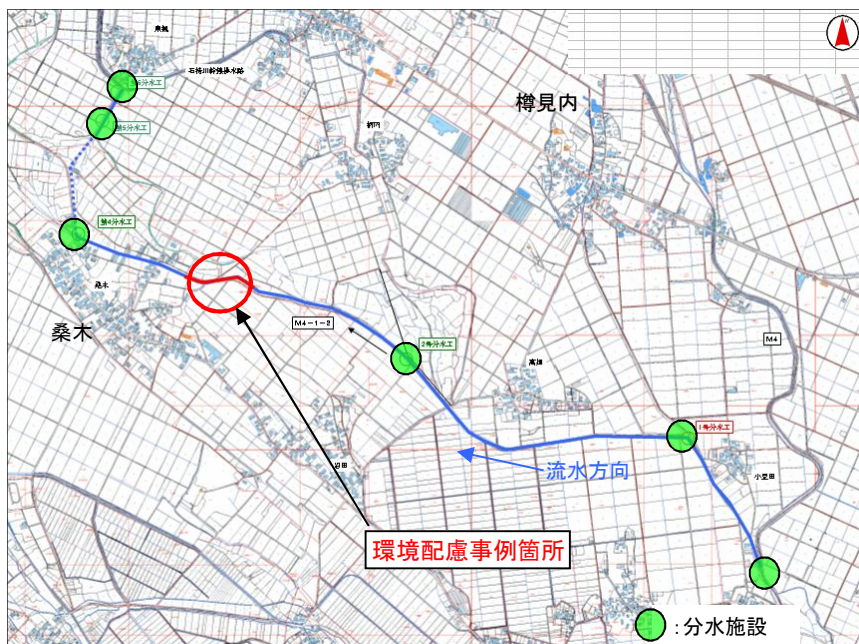
図面、写真、説明

位置

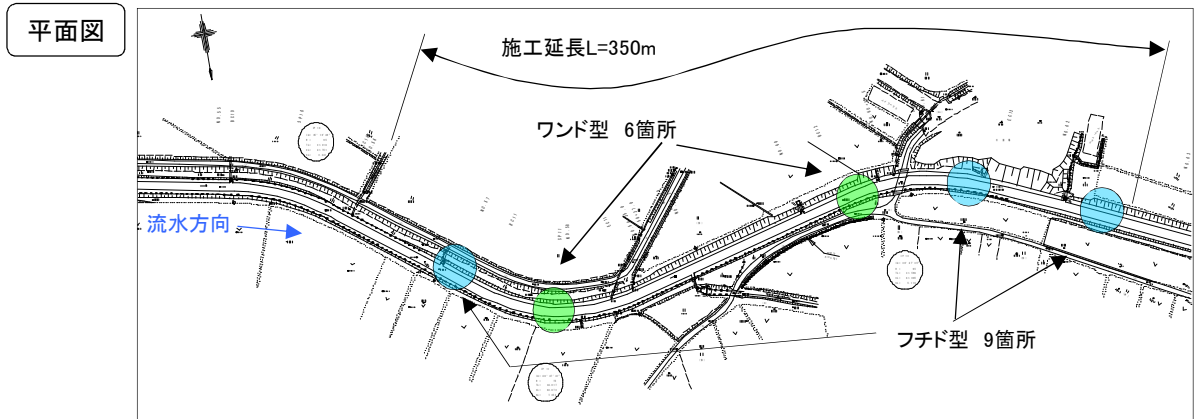


環境配慮事例箇所

計画路線及び施設配置図



図面、写真、説明



下流分水施設の堰上げにより流速



事前調査（魚類生物）

